



Japanische

Geschichtsschreibung

Im Wandel der Epochen

歴史の諸圖

太平記英勇傳  
一家略傳史  
柳下亭種員記

菜藤内藏之進年員

登喜元老  
丹州氷上郡  
猪野山の城  
主の御魂  
の合戦の先  
陣中衛の旗  
頭を令度  
の合戦の  
頼む御所  
一戦の御所  
敵を坂右近丹部  
春高の御所

聊敗る色も多し敵と交り味方  
一旦み入ると安しと戦場と切抜幼き頃  
在り此所に止りて様子を伺ふ味方の大将  
妻子も自衛をこころみ此上主君の難言  
三井寺の杖陣に忍寄るも途途中で登喜が  
影を巡る織尾長助の軍旗を行合戦に双方無双の極將  
さし内藏の頭を運ぶもつれどいかに元氣な  
竟不生捕らう此之陣に泉首せられし時小行年  
或談が菜藤年員春高が勢にたがひ退却し自ら敵の勇士五人討取  
此場で討死を遂ぐるも菜藤程の勇士さるるの戦軍を遂行て自と命  
すも前登喜の運命を察し既討死と究ぐる程の菜藤も  
始終の見識相違せしつれどいかに

口双空 殺身曝ち報君公  
刈衣客 共感生涯一夢中  
今一々夜のあはれも  
此の巻乃も

Vortragsabend mit Podiumsdiskussion  
22.04.2014, 18h ct, Juridicum 604  
Die Studierenden des MA-Studiengangs "Japan in der Welt" laden ein